

平塚江南高校

データ A:B:C:D比 3:5:2:2/時間 50分/配点 200点/観点:表現力・理解力・情報活用能力・論理的思考力
 2015年度募集定員:318名 / 2015年度志願者数:395名 / 2015年度志願競争率:1.24倍

県下最多の問題数で、5教科をまんべんなく問う——基本重視・具体性重視の教科横断型

□問題の概要

ベーシックな「教科横断型」:前半文系・後半理系

おおまかに分けると前半が文系、後半が理系というオーソドックスな配列です。

課題1 文系の教科横断型です。「日本の特徴を外国人に紹介する」というテーマで文章の後に、英国理社の問題がバラエティ豊かにならびます。基本中心ですが、説明記述問題や「日本についての説明をどのようにするか」といった、他の学校ではあまり見ることのなさそうなひとひねりある問題が配置されています。

課題2 水をテーマにした、理系の教科横断型問題です。水の密度や化学的特性などを問う問題の後に、井戸の配置に関する図形問題があり、その次はソ連解体、セ氏と華氏の単位変換、水を用いた慣用句と、まことに多種多様な設問が連続する展開です。

知識を求める問題もありますが、全体的に、設問に書かれている条件を正確に読み、正確に解答することが求められています。

□設問一覧 難易度平均 [5.9] (昨年度は6.1)

※表の詳しい見方は別のページにあります

「思考プロセス重視」——設問数が多く、変化に富むため最後まで気が抜けない

大設問	設問	形式	使用教科	読解プロセス			標準的思考プロセス							解答プロセス				難度	内容概略	
				読1	読2	読3	1	2	3	4	5	6	7	選択	記述	説明	論述			
課題1	問1	説明	国	<input type="checkbox"/>			推	推	推	文									8	外国人が困る理由を30~40字で記述する
	問2	選択	英国	<input type="checkbox"/>	訳		訳	推	判										6	英文の意味にあう四字熟語を選択
	問3	記述	英国	<input type="checkbox"/>	訳		訳	推											6	文脈にあう英単語1語を答える
	問4	記述	社	<input type="checkbox"/>			知	判											5	説明にあう日本の建物を答える
	問5	選択	理	<input type="checkbox"/>			知	判											4	春分・秋分に必ず起こることを選ぶ
	問6	選択	国	<input type="checkbox"/>			推	推	判										5	段落の要旨を選ぶ
	問7	選択	社	<input type="checkbox"/>			知	判											4	流水の生まれる海を答える
	問8	選択	社	<input type="checkbox"/>			知	判											4	地球温暖化の説明として適さないものを選ぶ
	問9	論述	国社	<input type="checkbox"/>			推	知	推	文									9	日本と他国の類似点を説明する
	問10(1)	説明	英国	<input type="checkbox"/>	訳		訳	訳	推	文									9	春秋論争の説明をする
問10(2)	記述	英	<input type="checkbox"/>	訳		推	訳	判										7	整序英作文	
問10(3)	説明	英国	<input type="checkbox"/>	訳		訳	訳	推	文									9	蕪村の春秋論争に関する見解を30~40字で記述する	
課題2	問1	選択	理	<input type="checkbox"/>			推	算	判									5	0℃付近の水と凍りの密度の変化のグラフを選ぶ	
	問2(1)	選択	理	<input type="checkbox"/>			推	判										4	文章とかかわりの深い水の性質を選ぶ	
	問2(2)	選択	理	<input type="checkbox"/>			推	判										4	文章とかかわりの深い水の性質を選ぶ	
	問3	説明	数	<input type="checkbox"/>			図	推	判	算								8	基準を満たす土地の総面積を計算し、過程を説明する	
	問4	計算	数	<input type="checkbox"/>			図	推	算									6	水源同士の距離がどのくらいになるか計算する	
	問5	記述	社	<input type="checkbox"/>			知	判										5	1978~1999年におきた歴史上の出来事を答える	
	問6(1)	作図	数理	<input type="checkbox"/>			推	判	図									6	セ氏温度と華氏温度の関係をグラフに表す	
	問6(2)	立式	数理	<input type="checkbox"/>			推	算	式									6	セ氏温度と華氏温度の関係を式に表す	
問7	選択	国	<input type="checkbox"/>			推	判										4	水に関する慣用句の間違った使い方を選ぶ		

設問数は小田原とならぶ最多レベル。上の表でわかるように、説明記述や論述が数問ある以外は全体に「読解プロセス」「解答プロセス」はシンプルなので「思考重視」といえます。

設問数が多いので時間配分が重要になります。前半から後半に向かって難しくなるような性格はないので、問題

の全体的配置をざっと確認し、勝負ポイントを見極めてから、とりかかる順番と時間配分を考えるとよいでしょう。

□設問の特徴

基本的な内容を、自由自在に使いこなすことが課題

教科横断型というだけで難しくそうな印象を与えますが、平塚江南高校は、あえて基礎基本中心に出題しています。一つ一つの問題は単独でとりあげると意外に解きやすいものが多いのです。また、具体性が高いことも特徴です。ほとんどの設問が何か具体的なできごとと関係しており、抽象的な「論理」中心の問題はありません。また、県下で最も「5教科」のバランスが整えられており、注意深く作成されていることがわかります。

基礎基本中心ですが、教科横断型になったり、はじめて見る事項と結びつけられたりしているため、語句や解法を暗記しただけでは歯がたちません。よく理解して使いこなすことが重要です。

説明問題もひねりはありませんが、決して難解ではなく、よく文章を読んで考えれば解答可能です。

平塚江南高校の「基本重視+具体性(使いこなし)重視」の代表例は課題1の問10です。松尾芭蕉と与謝蕪村の架空の対話(しかも英語)というユーモラスな文章から出題されています。ここには「春秋論争(春と秋のどちらがより詩的かの議論)」について説明する問題や、蕪村の考えを解釈して、彼がどのような根拠でどのような意見を述べているか、解答するものなどがあります。これらはかなり意表をつく内容です。それでも、基本的な学力が身につけていれば解けるものです。そのような基本重視の問題を題材や問い方にひとひねりを加え、本当に理解できているか、学んだことをきちんと使いこなすことができるかどうかを問うのが特徴です。また、蕪村の意見の根拠を書かせる際には、「さまざまな根拠のうち、1つを用いればよい」という助け舟を出しています。

その前の問9も興味深い問題です。課題文では日本の特徴を他の国との相違点に着目して説明していますが、共通点に着目して説明するならどうするか、という説明記述です。こちらは、日本についてよく見知っていることや学んだことを新しい角度から考えさせる点が工夫されており、設問に答えることが知識の再発見になるという特徴があります。

いずれも複雑な内容の大規模な作文というよりも、条件をしっかりと守って要領よくまとめる問題です。

課題2の理系は、文系に比べるとややおとなしめですが、それでも「基礎基本の使いこなし重視」は一貫しています。模式図のグラフの判定や、理科の知識をもとにした図形的思考、密度の応用や、単位変換などがならびます。これらも課題1と同じく、はじめて見る題材を使いながらも、基本的な知識を幅広く応用することが求められています。

□昨年との比較

多数の設問・基本重視・異文化比較などの主要な性格は変化なし

多数の設問、基本重視の変化に富んだ問題群という特徴は変わっていません。また、題材として、日本と他の国の文化についての比較考察を行うという点は、昨年からの重要なテーマです。

今後も「時間的に厳しい」特色検査が続くものと予想すべきでしょう。

前の項目でもとりあげたグラフの問題(課題2の問1)は、氷と水の密度変化の模式図を使います。この図そのものは、おそらく全受検者がはじめて見ます。慣れない図でとまどいますが、内容的には資料の文章を正確に読めば、小学生でも正答可能です。要するに、正確に読んでいねいに手を動かして書いて解く、ということです。

このような性格なので、「どこが出るか」を予想してもあまり意味がありません。むしろ、全中学生必須の事項をどれだけ深く理解できるかにこだわるべきでしょう。

■問題・分析 ①

課題1 問2・3 日本語の熟語について英語でたずねる問題など

問2 英文に説明された内容を四字熟語にしたらどれになるか適切なものを選ぶ。

Bob usually studies till midnight and goes to bed around ten. Today he is studying hard late at night for tomorrow's test. It is ten thirty. He feels so hungry and wants to eat something like bread. At the moment, his mother comes into his room. She says, "Hi, how's your study going? I made sandwiches

for you. Why don't you rest for a short time and have them?" (語注省略)

- ①異口同音 ②以心伝心 ③自給自足 ④首尾一貫

問3 〈資料〉の文章中の空欄に適切な英単語を補う。

日本に長く住む外国人が、困ったように私に尋ねた。「日本人は日本を説明するのに、『私たちの国には四季があります』と言う。なぜだろう」と。なるほど、どの国にも四季はある。We () four seasons! と言われると、彼らにとっては、「日本には空がある」と聞かされる気分に近いのかもしれない。

◇問題分析：多様な視点・内容の適切な理解・要約力を求める応用的英文読解

「基本重視・使いこなし（具体性）重視」の典型的な設問です。テーマは四季についての日本人のいささか奇妙なほどのこだわりについてです。

問2は、英語・国語の教科横断型で、選択肢にならんだような熟語の知識に加え、英文を読みとって、適切に要約する力が求められているともいえます。

問3は文脈をつかむことで解答可能ですが、「日本は四季がはっきりした国だ」という、常識と化した見方が、外国人の困惑の種になるという興味深いトピックがとりあげられています。この設問に限らず「日本人にとっての常識」にどっぷりとつかりすぎていると書かれた内容と意図が読みとりにくくなります。

どちらにも共通しているのは「あるものごとを別の角度から見たり、別の方法で表現したりするとどのようなことが起こるか」という視点による思考判断です。このような視点は、芭蕉と蕪村の架空対談の問題（問10）でも解決のカギになっています。

■問題・分析・模試の出題例 ②

課題2 一問6 セ氏温度と華氏温度の関係をあつかう計算問題

国際的な温度表示の主な2種「セルシウス温度（セ氏： $^{\circ}\text{C}$ ）」と「ファーレンハイト温度（華氏： $^{\circ}\text{F}$ ）」のシステムを説明した上で、次の問いに解答する。

(1)セ氏温度 $x^{\circ}\text{C}$ と華氏温度 $y^{\circ}\text{F}$ の関係をグラフに書き表す。(2)二つの温度の関係を式で表す。

◇問題分析：理科に見えて実は数学——教科の枠を超えた発展型計算問題

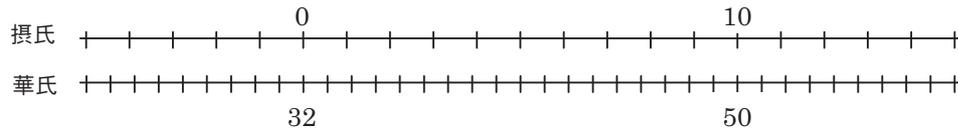
見た目は理科ですが、やっている内容はほとんど計算です。

このようなシステムを変換の問題は、根本的に数学の問題です。より発展的に考えれば、質量や密度、エネルギーなどの計算も、為替相場の通貨価値の計算も、ドント式比例代表制選挙の議席数などの計算も、計算問題です。ただ、これらのような具体性の高い計算は数学では出されませんし、社会や理科ではそこまできちんと計算して数値を求めることはありません。しかし、現実にはすべての分野で計算が行われています。

「何でも数値化して計算する」というのが数学の基本的性格です。その点で、「国語」が英文以外のすべての教科の内容を知るための基本ツールであるように、「数学」もあらゆる分野の問題解決ツールといえます。このようなことをよく理解して学ぶようにというメッセージが毎年平塚江南高校の問題にはこめられています。

□「特色検査模試」の出題

文章に示されたように、スペースシャトル、チャレンジャー号の打ち上げ当日の朝の気温は28～29度だった。この数値は、私たちがよく使う温度の単位ではない。私たちが日常使うのは、摂氏(せつし)という単位で、「 $^{\circ}\text{C}$ 」で表す。これは、水の融点を0度、沸点を100度として、その間を100等分して作られた単位である。一方、文章中の温度の単位は、華氏とよばれ、「 $^{\circ}\text{F}$ 」で表される。こちらは水の融点を32度、沸点を212度とし、その間を180等分して作られたものである。下の数直線を参考にして、摂氏温度 $^{\circ}\text{C}$ と華氏温度 $^{\circ}\text{F}$ の間の関係を正しく表した式を、次のア～カの中から一つ選び、記号で答えなさい。



$$\text{ア } F = \frac{5}{9}C - 32$$

$$\text{イ } F = \frac{9}{5}C - 32$$

$$\text{ウ } F = \frac{5}{9}C + 32$$

$$\text{エ } F = \frac{9}{5}C + 32$$

$$\text{オ } C = \frac{9}{5}(F + 32)$$

$$\text{カ } C = \frac{5}{9}(F + 32)$$

□課題と対策

日常学習を深め、広げ、「きちんと理解」すること＋スムーズな作業力

教科横断型問題の代表的な問題ですから、あるものごとを学んだとき、教科のわくにとらわれずに考える習慣をつけることです。毎年の特色検査の問題に、たとえば一見無関係な国語・理科・社会がどう結びつくかのサンプルが示されています。そして、そこで使われる知識や思考パターンは、あくまでも教科の具体的な内容に立脚しています。したがって、学習したことがらをきちんと理解することが大切です。

では「きちんと理解する」とは何を意味しているのでしょうか。

学力検査の問題の多くは記号選択です。それならば、多少理解が不十分でも「多分これかな…」で選ぶことができます。同じ内容でも「書きなさい」「説明しなさい」「意見を述べなさい」となれば、必要な理解の度合いはどんどん深くなります。先ほどとりあげた「春秋論争」を例にします。「春秋論争とはどのようなものか、次から選びなさい」なら、そう苦労しません。浅い理解でもどうにかなります。ところが、「どのようなものか説明しなさい」と問われたら、より深いレベルの理解が必要になります。

また、多くの選択問題も、すでに書いたようにはじめて見るものであったり、教科横断型になったりしていますので、やはり「何となくわかっているつもり」程度では苦戦させられます。

細かい知識の量よりも、理解の質が重要ということなのです。

では、対策の2つの柱を示します。

- 1：設問を正しく読んで、なすべきことを明らかにする習慣を身につける
- 2：重要事項について「なぜ?」「どのように?」といったことを考える習慣を身につける

1は学習およびコミュニケーションの基本です。具体的には設問を読みながら重要箇所マークするなどして、絶対にピントが外れないようにすることです。ここをおろそかにすると、初めて見る特色検査の質問に、適切に解答することができません。そして、2は疑問をもち、思考することです。そして、その結果を誰かに説明することが、理解を深めるための王道です。

最後に、設問数が多いので、スムーズな作業力も欠かせません。問題練習において、制限時間を設けることを強くすすめます。